**Electrochemistry誌の執筆および著者校正のチェック表**

執筆，投稿，著者校正にあたっては，以下の点について特に重点的にチェックしてください．

1. “物理量，単位，記号についてはIUPAC Green Bookに準拠してください．

“IUPAC Quantities, Units and Symbols in Physical Chemistry”, 4th Ed., IUPAC, RSC Publishing, 2023

<https://iupac.org/wp-content/uploads/2025/03/IUPAC-GB4Abridged.pdf>　Ver.4

<https://iupac.org/wp-content/uploads/2019/05/IUPAC-GB3-2012-2ndPrinting-PDFsearchable.pdf> Ver. 3

“IUPAC 物理化学で用いられる量・単位・記号”, 第3版, IUPAC, 訳：産業技術総合研究所，
講談社, 2009.

<https://unit.aist.go.jp/nmij/public/report/translation/IUPAC/iupac/iupac_green_book_jp.pdf>

1. チェック事項を確認したら確認欄もチェックを入れてから投稿および著者校正報告して下さい．

該当する箇所のない項目については記入不要です．

**著者代表者氏名：**

|  |
| --- |
| **チェック事項** |
| **初稿・修正原稿の提出前または校正ゲラ返信時の確認項目** |
| ( ) | 論文タイトル・著者名・著者順（この項目は論文採択後，一切変更できません．採択後にやむを得ず変更する場合は再査読が，さらに掲載後に変更する場合は訂正原稿(Correction)の出版がそれぞれ必要です．） |
| ( ) | 共著者を含む著者の所属名・住所（住所は番地・町名等まで正確に記載して下さい．） |
| ( ) | Graphical Abstractの大きさ（横400pixel×縦320pixelの大きさでも文字等が判読できる) |
| ( ) | 論文の本文にキーワード(4つまで)を記載 |
| ( ) | 物理量(変数)のイタリック表示 |
| ( ) | FigureやTableの順番と対応 |
| ( ) | 図の引用時，文頭とキャプションでは Figure X; 文中ではFig. X |
| ( ) | 複数の図を引用する場合の例：Figs. X and Y(文頭)またはFigs. X and Y(文中) |
| ( ) | 数式と数式番号 (番号表記は (1), (2) ……)  |
| ( ) | 本文中の引用文献は .1 (上付き数字。文末、句の場合はピリオド，コンマの後に上付数字) |
| ( ) | 引用文献の順序と対応 (注：文献リストにおいて同じ文献が繰り返し記載されていないこと) |
| ( ) | 引用文献情報と順番；　番号. 全著者, ジャーナル名（*italic*）, 巻（**Bold**）, 開始ページ (発行年). (最後にピリオド) |
| ( ) | Supplementary materials (Supporting information, 付録)に引用文献のリストを含めていないこと(参考文献は本文に記載し、その番号をSI中に記載すること) (第6章11参照) |
| ( ) | 引用著者が3名以上の場合，最後の著者の前に「, and」が入り，2名の場合は「and」 |
| ( ) | Nyquist (複素インピーダンス)プロット, Cole-Cole (複素誘電率) プロットの縦軸と横軸の目盛り幅の同一化 |
| **修正原稿の提出時のみ** |
| ( ) | 訂正箇所をハイライトした原稿（査読を迅速に行うため）と，ハイライトのない原稿（早期公開時に使用するため）の両方を用意し，提出する． |
| **校正ゲラ返信時のみ** |
| ( ) | 参考文献リストにおける原著論文の引用先の表示引用が正確であれば，青い文字で表示→リンク表示された情報と記載情報との対応チェック引用が不明または不正確であれば，黒文字で表示　→　要修正 |
| ( ) | (Supporting Information) SIに訂正が必要な場合は訂正箇所の指定ではなく，修正済みファイル全体を送って下さい．(印刷業者ではファイルの置き換えを行い，編集は一切行いません．) |
| ( ) | 著者校正による修正版が公開された後，著者の責任に帰する追加修正を要する箇所が生じ，著者の希望によってそれが行われた場合には，追加修正に関する作業手数料(1件5,000円)の請求があることを了承します． |

1. よくある間違いと正しい表記の例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **正** | **誤** | **備考** |
| meter, analyze, behavior, A, B, C, and D | metre, analyse. behaviour,A, B, C and D | 本誌は米語(American English)表記を標準とする． |
| 10000 | 10,000 10 000 | 4桁以上の数値の場合，,やスペースによる3桁毎の区分はおかない． |
| cm s–1 (あるいはcm/s) | cms–1，cm･s-1(非推奨) | 本誌では単位間のドット”･”は表記しない．例外: Ah (容量), Wh (仕事) |
| $E\_{p}^{Ox}$  | $E\_{p}^{Ox}$  | 上付き・下つき添え字は物理量あるいは数を表す場合(例:*pi*)以外はローマン体 |
| p*K*a | *pK*a | pは物理量ではなく，powerの意味 |
| *t* = 25 °C | *t* = 25°C | 温度表記の°Cの前はスペースあり |
| *θ* = 180° | *θ* = 180 ° | 角度表記の°の前はスペースなし |
| 20 %, 20 ppm | 20%, 20ppm | 分率は無次元量の単位記号％について，他誌ではスペースなしが推奨されている場合があるが(ACS等)，本誌ではIUPACに準拠しスペースを入れる． |
| 20 wt%, 20 vol%, 20 mol%, 20 at% | 20 wt.%, 20 vol.%, 20 mol.%20 at.% | %の前にwt, vol, atなど分率の意味を示す文字を表記する場合，省略された文字であっても”. (ドット) ”はつけない． |
| log (σ/S cm–1) | log σ/S cm–1 | 引数の無次元化 |
| *j* / mA cm–2 (in figures) | *j* (mA cm–2) | 軸ラベルの無次元化 |
| (*R*ct*C*dl) –1 / Ω–1 μF–1 | 1/*R*ct*C*dl / Ω–1 μF–1 | ダブルスラッシュ使用禁止 |
| *n*-hexane, *p*-benzoquinone | n-hexane, p-benzoquinone | 異性体関係や官能基の位置(イタリック) |
| sp2 | *sp*2 | 電子の軌道表記はローマン |
| π, σ | *π*, *σ*  | (electron) |
| (文頭) *tert*-Butyl alcohol  | (文頭) *Tert*-butyl alcohol | 物質名における結合様式の記号は文頭単語として扱わず小文字から始める． |

* 上記の誤欄に記載された各種表記法は誤りではないものも含まれますが，本誌フォーマットの統一のため，ご協力下さい．
1. ダッシュ関連記号の使い分け

|  |  |
| --- | --- |
| **記号** | **用例** |
| - (Hyphen) | 1人の人名（例：Lennard-Jones） |
| – (En Dash) | 減算記号，負記号，範囲（例：2018–2020, Tokyo–Kansai　[~，～等は使わない]，2人の人名（例：Poisson–Boltzmann），2つの事象（例：keto–enol） |
| — (Em Dash) | 文章と文章，あるいは語間に置き，時間の経過，強調，副題を表す． |

1. その他

|  |  |
| --- | --- |
| **推奨表記** | **備考** |
| mol dm–3 (or mol L–1) | Mを使用する場合は初出で定義することを推奨 |
| in situ, in vivo, ca., i. e., etc., et al. | 英語化されたラテン語表現はローマン体を推奨 |
| *operando, ab initio* | 学術分野でのみ普及が進んでいるラテン語由来の単語はイタリックでよい． |